

重点取組分野	a2 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①数学科において、IT授業を実施し、基礎力の定着を図る。②校内授業研修や小中一貫ブロック授業研修を実施し、授業力向上を図る。③家庭学習の重要性を呼びかけ、学習力の定着を図る。④学習状況調査をもとに「分かる授業」の工夫をする。⑤教科横断的な授業の実践をする。	「分かる授業」の実践として「授業のユニバーサルデザイン化」に取り組んだ。そのために具体的な教育活動に結びつく校内研修を複数回行った。年度内の研修の集大成として校内授業研究会を実施した。研修、実践にあたっては、学習状況調査の結果を分析し、生徒の実態把握に努めた。	A
豊かな心	①生徒会活動や行事などを通して、本校「基本精神」に基づいた生徒の育成に努める。②発達段階に応じた道徳授業を通して、豊かな心の育成を図る。③人権教育実践推進校として、生徒の人権意識を高める。	①生徒一人ひとりが安心して過ごせる環境づくり(授業づくりと学習環境づくり)に努めた。②教育課程に基づいた道徳授業を実践した。③人権作文をひとつのゴールとした人権教育のユニット化を行った。各部が連携して、子どもをみとる視点や教職員の人権意識の向上をねらった。	B
健やかな体	①外部講師を招聘し、食教育の大切さを広め、食教育を通して健康の大切さを伝える。②保健体育の授業をはじめ、家庭科や保健学習において栄養講座を実施する。③規則正しい生活習慣を、家庭の協力を得て実践させる。	・保健体育科の授業や家庭科の授業を通し健康的な体づくりや健康で安全な生活の基礎知識を身につけるようにした。また、外部講師の食育や安全教育を効果的に行うことができた。また、朝の挨拶運動や朝学活、保健室利用状況から生徒の心身の健康状態を把握し、健やかな体づくりの育成に努めた。	B
児童生徒指導	①生徒に寄り添った指導の充実を図る。②教職員・保護者・生徒による挨拶運動や、保護者と協力した授業巡回を実施する。③誰もが安心して過ごせる学校生活を目指し、教育相談などの相談活動を充実させる。④保護者との連携を深め、情報の共有化を図る。	・生徒に寄り添った生徒指導が行えた。・毎週水曜日に三者でのあいさつ運動を展開した。また、生徒、教職員においては、毎日、行っている。・学期初めの教育相談だけでなく、いつでも職員が教育相談を行うように心掛けた。・保護者と連絡を密に取り、情報共有を図った。	A
特別活動	①生徒一人ひとりが達成感を持てるような自治的活動の実施に努める。②朝会や総会、各行事の運営を生徒自らが行う体験的な場面の充実を図る。③生徒自らが「自分たちで自分たちの学校を良くしていこう」という自浄意識を持たせる。④YPアセスメントを活用した学級活動を実践する。	・行事の企画・運営を計画的に行わせるなど、生徒一人ひとりに達成感を持たせる自治活動に努めた。・行事の企画や運営などで生徒自ら活動する場を充実させた。・委員会活動を中心に「学校をよりよくしよう」という意識を持たせて活動することができた。	B
特別支援教育	①特別支援教育委員会の定期開催を内容の充実を図る。②各学級で個別の指導計画を作成する。③特別支援教育(学習支援)の充実のため、時間割内に担当者を決め、全職員で対応する。④関係機関と連絡を密に取りながら、丁寧な支援に努める。	・特別支援教育委員会を定期開催し、特別支援教室の運営にあたった。・特別支援学校や通級指導教室と連携することで生徒理解に努めるとともに、各種研修を行った。・学習指導部と連携し、授業のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。	A
地域連携	①保護者や地域と連携した「下中学生が安心して過ごせる学校づくり(SAS)」を実践する。②職員・生徒が地域行事に多く参加し、地域連携を深める。③学区内の各地域に分かれ、地域清掃を実施する。④小学校・中学校・地域との合同防災訓練を実施する。	・地域行事へ多くの生徒・職員が参加し、地域との連携を深めた。地域清掃では、保護者や地域の方々と一緒に清掃し、交流を深めた。小中合同防災訓練では、災害時の動きを地域の方に教授してもらい、意識が高められた。	B
いじめへの対応	①生徒一人ひとりに寄り添い、受容的・相談的生徒理解と指導を実践する。②生徒一人ひとりに自己有用感を持たせる取り組みを実施する。③教師自ら研鑽を重ね、いのちの大切さや尊さを教えていく。④組織として情報を共有し、全職員で取り組んでいく。	生徒一人ひとりに寄り添えるよう、相談の機会を積極的に設け、生徒理解を深めた。いじめの定義は、職員に定着し、細かなところまで対応しようとして取り組んでいる。情報共有を組織的にしており、いじめを見逃さない体制作りが進んでいる。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①教職員一人ひとりが学校運営の一員であるという意識を持つ集団作りを図る。②校内研修、校内OJTを充実させ、自校の課題や今日的課題について理解を深める。③経験の浅い教員に対する研修や生徒指導研修を実施し、指導力向上を図る。④若手開発研修を実施し、職員の実践力を高める。	・教職員一人ひとりが学校運営の一員である意識を持ち、意欲的に学校運営を行った。・様々な研修を行い、また日常的に職員間の情報交換を通してOJTの充実を図った。・若手開発研修を通し、経験の浅い教員を中心に、授業研修を軸とし実践し、意識の向上に努めた。	B
ブロック内評価後の気付き	・生徒の主体性を大切にした取り組みをさらに進め、生徒が意欲的に自治活動に努めていけるように計画立案をしていくことが大切である。 ・地域行事へ多くの生徒職員が参加し、地域との連携を深めた。 ・小中合同授業研究会では、「道徳」の授業を通して、相互理解と活発な意見交換ができた。 ・保護者や地域、諸機関との連携と情報共有をさらに図り、体制を強化していく。		
学校関係者評価	・保護者や地域が一体となった挨拶運動や授業巡回を通して、生徒ひとり一人が安心して過ごせる環境作りに力を尽くした。 ・地域行事へ多くの生徒職員が参加し、また学校行事に多くの保護者・地域が来て、相互の連携を深めた。 ・授業改善を堂に行い、生徒の学力向上に努めているように期待している。		
中期取組目標振り返り	・特別支援教育のひとつであるユニバーサルデザインを全校の教室環境や授業内容に取り入れ、それに伴って学力の基礎基本の定着を図った。 ・生徒ひとり一人の安心・安全のために生徒に寄り添い、教育相談の充実を図った。全体的に落ち着いた学習環境が出来つつあるので、今後も継続していきたい。 ・保護者引き取り訓練を入れた取り組みで防災意識を高めることが出来た。		

重点取組分野	a2 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	b1		
豊かな心	b2		
健やかな体	b3		
児童生徒指導	b4		
特別活動	b5		
特別支援教育	b6		
地域連携	b7		
いじめへの対応	b9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	b10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
児童生徒指導	c4		
特別活動	c5		
特別支援教育	c6		
地域連携	c7		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			